

## 2. 火山の概況

(平成 17 年 6 月 9 日 ～ 平成 17 年 6 月 15 日)

十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていると推定される。

浅間山では活発な噴煙活動が継続し、微弱な火映が時々観測された。火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。火山活動度レベルは3（以下、レベルと記載）。

三宅島では多量の火山ガスの放出が継続していると推定される。

阿蘇山では、赤熱現象が観測される等、火口内の熱的な活動のやや活発な状態が続いている。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。御鉢のレベルは2、新燃岳のレベルは1。



図1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山（火山名に下線）

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	草津白根山	浅間山	三宅島	福徳岡ノ場	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
24	6/9-6/15		●	●		●	●		●	●	◆	◇	◇	◆
23	6/2-6/8	◆	●	●		●	●		●	●	▲	◇	◇	▲
22	5/26-6/1	●	●	●		●	●		●	●	◆	◇	◇	▲
21	5/19-5/25	●	●	●	◆	●	●		●	●	▲	◇	◇	▲
20	5/12-5/18	●	●	●	●	●	▲	●	●	◆	◇	◇	◇	◇

号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山(新燃岳)	霧島山(御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
24	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
23	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
22	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
21	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
20	①	①	③	①	①	③→②	①	①	②	②	②	②	③

表1 最近1か月に記事を掲載した火山（左）及び各火山のレベル（右）

### 注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山      ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山      ◇：その他記事を掲載した火山
- ：記事を掲載していないレベル対象火山      ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 記事は、▲、●及び◆（注1参照）に該当する火山及びレベル2以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注3 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

### ● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていると推定される。噴煙の高さは火口縁上概ね200mで推移した。

## ● 樽前山 [熱]

A火口およびB噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

## ● 浅間山 [噴煙・火映・地震・微動] レベル3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は最高で火口縁上300mまで上がった。また、微弱な火映が時々山麓の高感度カメラ<sup>1)</sup>で観測された。

火山性地震及び微動の回数はやや多い状態が続いており、期間中それぞれ1日あたり42～66回、0～8回であった。

1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が山麓に設置。

## ● 三宅島 [噴煙・火山ガス]

期間中、山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は最高で火口縁上200mまで上がった。火山性地震の回数は少なく、1日あたり0～6回であった。火山性微動は観測されなかった。

今期間は火山ガス放出量の観測を行わなかったが、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されたほか、噴煙活動にも大きな変化が見られなかったことから、山頂火口からは依然として多量の火山ガス放出が続いていたと推定される。

## ● 阿蘇山 [赤熱<sup>2)</sup>・熱・土砂噴出・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口では、赤熱現象<sup>2)</sup>が観測され、湯だまり量の少ない状態が続くなど、熱的な活動は引き続きやや活発であった。

福岡管区气象台及び阿蘇山測候所が15日に実施した現地観測によると、中岳第一火口内の状況は前期間と比べ大きな変化はなかった。15日夜の観測で、火口底の北側噴気孔付近のごく一部に赤熱現象が確認されたが、赤熱領域は前期間と比べ変化はなかった。北側噴気孔付近の温度は207℃<sup>3)</sup>と引き続き高温であった(前期間は194～218℃<sup>3)</sup>)。火口内の湯だまりは、引き続き色は黒灰色、量は約1割で、表面温度は75℃<sup>3)</sup>と高い状態であった(前期間は68～71℃<sup>3)</sup>)。湯だまりの北東部で高さ約5m、その他で高さ2～3mの多数の土砂噴出が引き続き観測された。

10日夜～14日未明に火山性連続微動の振幅がやや大きくなったが、その他の観測データには特に変化は見られなかった。孤立型微動の発生状況に変化はなく(今期間の発生回数は463回、前期間は461回)、火山性地震の発生回数は5月以降1週間あたり100回未満で推移している(今期間の発生回数は74回)。

噴煙活動、地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

2) 赤熱現象は、地下から高温の火山ガスなどが噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。阿蘇山では、赤熱域が拡大すると、火孔が開孔し、噴火活動が活発化したことがある。

3) 赤外放射温度計による。赤外放射温度計は物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

## ● 霧島山 [噴気] 御鉢：レベル2 (やや活発な火山活動)・新燃岳：レベル1 (静穏な火山活動)

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、10日及び15日に噴気が観測され、最高は15日に観測された火口縁上200mであった。地震活動は静穏で、その他の観測データにも特に変化はなかった。

## ◆ 桜島 レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

今期間、噴火は観測されなかった(前期間は爆発的噴火を1回観測し、鹿児島地方气象台(南岳の西南西約11km)で8日に微量の降灰量を観測<sup>4)</sup>)。

地震活動等その他の観測データには特に変化はなかった。

4) 降灰量は前日09時～当日09時の総量を観測している。微量は、降灰量が1㎡あたり0.5g未満であったことを示している。

◇ 薩摩硫黄島 レベル2（やや活発な火山活動）

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 口永良部島 レベル2（やや活発な火山活動）

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

◆ 諏訪之瀬島 レベル3（小規模な噴火の可能性）

今期間、噴火は観測されなかった。火山性地震及び微動の活動も低調であった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第163号 ↓（1日1回発表）	9日 16:00 ↓	前日及び当日00時～15時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは3。
	火山観測情報第169号	15日 16:00	
三宅島	火山観測情報第317号 ↓（1日2回発表）	9日 09:30 ↓	前日15時～当日09時もしくは当日09～15時の活動状況、及び上空の風の予想。
	火山観測情報第330号	15日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第30号	10日 11:35	やや活発な火山活動が継続（赤熱域やや拡大、湯だまり量約1割に現象）。レベルは2。